

東京農業大学

「産学官・地域連携HUB構想」



「食・農・環境」の未来を
産学官・地域連携ネットワークで共創する

産学官・地域連携の次のステージとして、東京農業大学と連携先組織（自治体・企業・団体など）との1対1の連携から、「東京農業大学がハブ」となって連携先組織をつなぎ、イノベーションを創出していく＝産学官・地域連携HUB構想」の実現を目指す

総合研究所

Tokyo NODAI Research Institute
TNRI

産学官・地域連携HUB構想

2020年度

構想

ニューノーマル社会への対応として、新たな産学官・地域連携の形を提案する東京農業大学「産学官・地域連携HUB構想」をスタート

東京農業大学はこれまでも産学官・地域連携を推進してきましたが、更なる進化を目指して新たな仕組みの次のステージとして、東京農業大学と連携先組織（自治体・企業・団体など）との1対1の連携から、東京農業大学がハブとなって連携先組織をつなぎ、イノベーションを創出していく「産学官・地域連携HUB構想」の実現を目指しています。

この構想のキックオフとして「『食・農・環境』の未来を産学官・地域連携ネットワークで共創する」というテーマのもと、オンラインにてシンポジウムを開催しました。

オンラインシンポジウム

このシンポジウムは、東京農業大学教職員と連携先組織、また連携先組織同士の新たな連携創出に向けて、従来の一方通行型のイベントではなく、参加者同士による対話型での実施を重要としています。実施したプレDS（ディスカッションセッション）では、日本における“テロワール”の可能性について関係者で協議し、本シンポジウムでは、農林水産省によるDX推進に関する講演、農林水産業に関する政策実務担当者、本学連携先の自治体、団体、企業、教職員等が参加し、実際のニーズと本学のシーズのマッチングと転用の可能性について議論しました。

今後、このような未来志向の構想がスタートしたことで、研究者だけではなく、学生にとっても未来を想定したバックキャスト的な視点で学ぶ機会が増えることでしょう。

農大 HUB

農大をHUBとした産学官連携ネットワークを構築する

- 合同シンポジウムを一過性のイベントではなく、農大をハブとした産学官連携ネットワークの構築に向けた機会として捉え、農大の産学官連携を象徴するイベントとする。
- 本プロジェクトを通じて
 - 1) コミュニティ：農大と参加者、参加者同士の関係性
 - 2) プロジェクトテーマ：シーズとニーズのマッチング、ビジョンの共有を生み出し、今後の産学官連携の取り組みの活性化へとつなげる。



講演

「農業DX ~デジタルの力で産学官と地域をつなぐ~」

信夫 隆生氏

農林水産省 大臣官房サイバーセキュリティ・情報化審議官 / 大臣官房審議官(デジタル政策担当)

※役職は当時

東京農業大学

「産学官・地域連携HUB構想」シンポジウム

日時 2020年12月16日(水) 13:00~19:30

参加費 無料

第1部 ライブ配信あり・申込不要 (どなたでもご視聴いただけます)

- 13:00~13:35
オープニングセッション
- 挨拶
東京農業大学 学長 高野 亮己
挨拶:農大の研究・サイエンスポートの紹介など
東京農業大学 農生命科学研究所 所長 山本 祐司
挨拶:産学・地域連携センター紹介や活動方針など
東京農業大学 農生命科学研究所 産学・地域連携センター センター長 大浦 裕二
- 講演:農業DX~デジタルの力で産学官と地域をつなぐ~
農林水産省 大臣官房サイバーセキュリティ・情報化審議官 / 大臣官房審議官(デジタル政策担当) 信夫 隆生 氏
- 13:55~14:45
報告セッション
- 報告セッション1:産学官・地域連携に関する事例発表
▶「大学のある街における大学の役割~未来を考える戦略センターの設立~」
東京農業大学 生物産学 北方農学 青田 穂積
▶「SDG s と地域創成の時代 デザイン思考の地域づくり」
東京農業大学 地域環境科学部 地域創成科学科 入江 彰昭
- 報告セッション2:研究と社会実装に関する発表
▶「昆虫(カイコガ)の超高感度性フェロモンを利用した匂いセンサの開発」
東京農業大学 農学部 デザイン農学科 櫻井 健志
▶「カンボジア王国における加工食品開発・農村開発に関する取り組み」
東京農業大学 地域環境科学部 生産環境工学科 村松 良樹
▶「農大の中北にいるまで」
東京農業大学 農学部 動物科学科 岩田 尚幸

第2部 要申込(東京農業大学の連携先組織を中心とした招待制)

- 15:05~17:35
分科会
- 分科会1のテーマ:食の新価値創造
分科会2のテーマ:農業・畜産業・林業を取り巻く現状課題の解決
分科会3のテーマ:食・農・バイオを軸とした社会課題解決
- 17:55~18:20
全体でのラップアップ
- 分科会の内容共有とシンポジウムのクローズング
- 18:40~19:30
交流会
- 事前購入いただいた地域応援産品をしながらの交流会



報告セッション1:産学官・地域連携に関する事例発表

「SDGsと地域創成の時代 デザイン思考の地域づくり」

入江 彰昭 教授

東京農業大学 地域環境科学部 地域創成科学科



報告セッション2:研究と社会実装に関する発表

「昆虫(カイコガ)の超高感度性フェロモンを利用した匂いセンサの開発」

櫻井 健志 教授

東京農業大学 農学部 デザイン農学科

当日の様子は
こちらから
視聴出来ます。



STEP1

参加者のデザイン

農大HUBに招き入れたい参加者(研究者・自治体・企業など)のデザイン

STEP2

関係性の構築

産学官・地域連携に向けた参加者同士の関係性の構築

STEP3

プロジェクトテーマの創出

シーズ(大学)とニーズ(企業・自治体)のマッチングによるプロジェクトテーマの創出

STEP4

協調アクション

プロジェクトテーマを起点とした、継続的な産学官・地域連携の取り組みへ

→ 実働

2021年度～

東京農業大学「産学官・地域連携HUB構想」も2年目を迎え、東京農業大学と連携先組織(自治体・企業・団体など)との1対1の連携から、東京農業大学がハブとなって連携先組織をつなぎ、イノベーションを創出していく発信の場として2回のシンポジウムを開催しました。

第1回 シンポジウム

地域の魅力を知る・楽しむ・学ぶ一つの手法として、ガストロノミーが注目されています。第1部では、オホーツク地域で出会った生産者を訪ねながら横断する小旅行をコンセプトにして、一流シェフが皿をキャンパスに見立て、北海道オホーツク地域の豊かさ(自然、産業、暮らし、人:幸福度など)を実感・体験できるような演出を表現しました。

また第2部では、シェフが作り出す“おいしい”についてトークセッションが交わされ、分野の異なるシェフ達が思うそれぞれの“おいしい”の独自の考えを共有し、意見交換をすることで理解が深められました。



当日の様子は
こちらから
視聴出来ます。

2021 東京農業大学「産学官・地域連携HUB構想」第1回シンポジウム

“おいしい”から創る地域の魅力

2021.11.18(木) 14:00-15:40

オンライン開催 (Zoom)

司会進行 上田智久 (東京農業大学 農学・地域連携センター)

参加費 無料

参加方法:事前申し込み必要
申し込みはこちら
https://forms.office.com/r/TyL3h3yK4c
申込期間:10月25日(月)～11月16日(火)18時

ファシリテーター
川瀬良子
(東京農業大学 農学・地域連携センター)

第1部 地域の魅力を皿で表現するとは?～オホーツクを題材にして～

①シェフによる紹介(料理特徴と解説)
②シェフの質問を交えた対話をもちに、ガストロノミーの魅力を知る
③シェフと観客の交流
ファシリテーターも交えた対話シェフとの意見交換によってガストロノミーの魅力をより深める

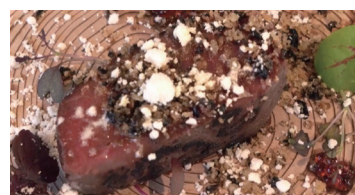
第2部 シェフがとらえる“おいしい”とは?

①シェフらによる1対1トークセッション(各が考える「おいしい」は何かを語り、食による豊穡の可能性を知る)
②“おいしい”について語る3名(観客と観客で「おいしい」のガストロノミーについて意見交換を行う)
③挨拶:江口文福 (東京農業大学)

東京農業大学 農学・地域連携センター
東京農業大学 農学・地域連携センター
東京農業大学 農学・地域連携センター



牡蠣 ミネラル サロマ湖の朝焼け



蝦夷鹿 包み込む森の香り



第2回 シンポジウム

第2回シンポジウムは“農大の実学=総合知が築く「食・農・環境」の未来”をテーマとしてオンライン方式にて実施しました。今なぜ総合知が求められるのか、持続可能な「食・農・環境」の未来とは、東京農業大学は強みである農学・生命科学分野の知とネットワークで「食・農・環境」の未来にどう貢献できるかを考え、教育の理念である実学主義を土台とした総合知と、連携先組織とのネットワークにより、複雑化した社会問題を紐解く切り口を見出しました。ご参加いただいた皆様より、チャット機能にてご質問を頂き、各テーマに沿った活発な意見交換が繰り返されました。

今回のシンポジウムで生まれた繋がりや連携テーマをきっかけとして、今後も産学官・地域連携の活性化に向けた取り組みを進めていきます。



当日の様子は
こちらから
視聴出来ます。

2021 東京農業大学「産学官・地域連携HUB構想」第2回シンポジウム

農大の実学=総合知が築く「食・農・環境」の未来

2021.12.16(木) 13:00-16:00

オンライン開催 (Zoom)

司会司会 名越 遼 (東京農業大学 農学・地域連携センター)

参加費 無料

参加方法:事前申し込み必要
申し込みはこちら
https://forms.office.com/r/71yZkrF8B
申込期間:～12月14日(火)18時

第1部 13:00-13:45 トークセッション「総合知が築く「食・農・環境」の未来」
今なぜ総合知が求められるのか、持続可能な「食・農・環境」の未来とは、東京農業大学は強みである農学・生命科学分野の知とネットワークで「食・農・環境」の未来にどう貢献できるか

第2部 14:00-15:30 産学官・地域連携成果報告/学内プロジェクト成果報告
総合知で挑むグローバルSDGs 農大強み・環境の未来を量かする実学研究

第3部 15:40-16:00 シーズ(成果報告)×ニーズ(参加者取組)による交流会

東京農業大学 農学・地域連携センター
東京農業大学 農学・地域連携センター
東京農業大学 農学・地域連携センター



東京農業大学 総合研究所の組織と役割



総合研究所アクセスマップ



「渋谷駅」下車
 ▶バス「渋谷駅」～「農大前」30分位
 小田急バス 成城学園前駅西口行(渋24)
 調布駅南口行(渋26)
 東急バス 成城学園前駅西口行(渋24)
 祖師ヶ谷大蔵駅行(渋23)

「経堂駅」下車▶南へ徒歩15分
 小田急線
 ▶バス「千歳船橋駅」～「農大前」5分位
 渋谷駅行(渋23) 等々力操車場行(等11)
 用賀行(用01)

「用賀駅」下車▶徒歩20分
 ▶バス「用賀駅」～「農大前」10分位
 世田谷区民会館行(園02)
 祖師ヶ谷大蔵駅行(用01)

※厚木キャンパスアクセス
<https://www.nodai.ac.jp/campus/map/atsugi/>



※北海道オホーツクキャンパスアクセス
<https://www.nodai.ac.jp/campus/map/okhotsk/>



東京農業大学 総合研究所

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1
 TEL:03-5477-2532 FAX:03-5477-2634 <https://www.nodai.ac.jp/nri/>



研究に関するお問い合わせ

農生命科学研究センター

TEL:03-5477-2532 FAX:03-5477-2634
 Mail:nri@nodai.ac.jp

産学官・地域連携に関するお問い合わせ

産学官・地域連携センター

TEL:03-5477-2562 FAX:03-5477-2634
 Mail:crenkei@nodai.ac.jp